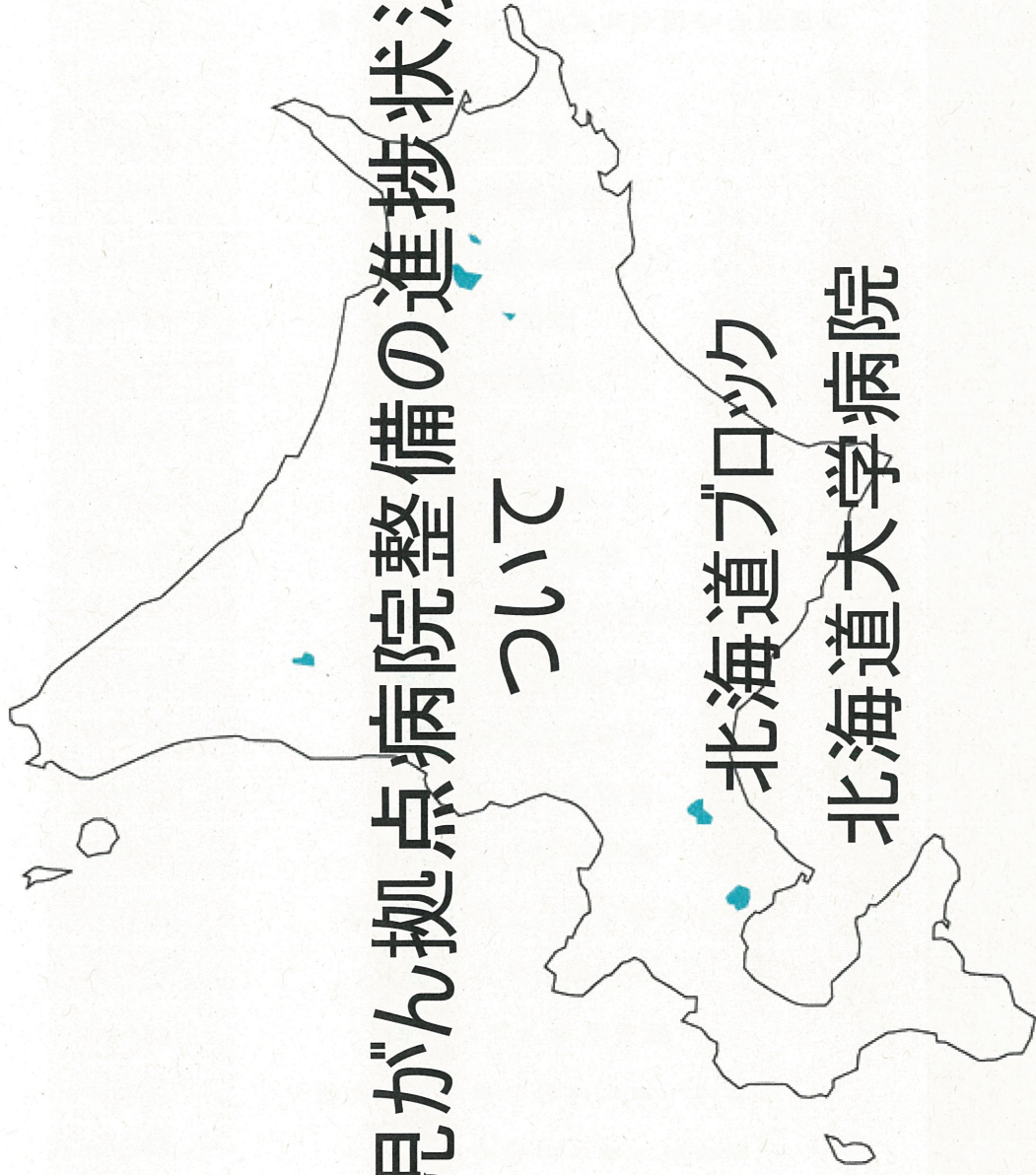


小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて



北海道ブロック
北海道大学病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績										地域連携		緩和ケア	相談支援センター
小児がん入院患者数	造血器腫瘍										小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者数	緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
	A L L										(5)	(28)	(3)	
	A M L										(5)	(28)	(3)	
	まれな白血病										(0)	(28)	(3)	
	M D S / M P D のうち C M L										(0)	(28)	(3)	
	M D S / M P D のうち C M L を除く										(0)	(28)	(3)	
	非ホジキンリンパ腫										(0)	(28)	(3)	
	ホジキンリンパ腫										(1)	(28)	(3)	
	その他のリンパ増殖性疾患										(0)	(28)	(3)	
	組織球症 H L H										(0)	(28)	(3)	
	組織球症 L C H										(0)	(28)	(3)	
	その他の組織球症										(0)	(28)	(3)	
	その他の造血器腫瘍										(0)	(28)	(3)	
	ダウン症 T A M 登録										(1)	(28)	(3)	
	神経芽腫瘍群										(5)	(28)	(3)	
	網膜芽腫										(1)	(28)	(3)	
	腎腫瘍										(0)	(28)	(3)	
	肝腫瘍										(1)	(28)	(3)	
	骨腫瘍										(1)	(28)	(3)	
	軟部腫瘍										(1)	(28)	(3)	
	胚細胞腫瘍										(3)	(28)	(3)	
	脳・脊髄腫瘍										(5)	(28)	(3)	
	その他										(1)	(28)	(3)	
	その他										(1)	(28)	(3)	
										(5)	(23)	(7)		
										(28)	(44)	(61)		
										(23)	(25)	(41)		
										(5)	(7)	(16)		
										(3)	(1)	(3)		
										(288)				

指定前後の変化

・進捗があった点

- (1) チームによる集学的治療の実施
 - ・ キャンサーボードの定例化。緩和ケアチームや若手医師や研修医も参加
 - ・ 療育やプレパレーションなどの積極的な展開
- (2) 再発・難治がんへの対応
 - ・ 腫瘍センター内に小児がん部門が設置され、専任の教員を採用
 - ・ 小児造血幹細胞移植専用の無菌室が増設
- (3) 病床確保の対応
 - ・ 新規の症例はほぼ即日入院可能
- (4) 思春期のがん患者への診療と長期フォローアップ
 - ・ 小児がん診療に全病院を挙げて取り組む体制を構築
(小児がん診療推進事業会議が設立)
- ・ 院内ワーキンググループが設置され小児と成人の診療科の連携を確認



(5) 他の小児がん診療病院との連携

- ・ 北海道全域（他大学病院を含む）から患者を受け入れ
 - ・ 定期的な研究会や症例検討会が開催
- ## (6) 地域連携のための取り組み
- ・ 小児がん専門医だけでなく小児神経や内分泌専門医などの地域中核病院での出張外来の開設が進行
 - ・ 在宅医療機関と連携を強化
- ## (7) 人材育成・交流、講演会開催
- ・ 小児がん勉強会、カンファレンス、講演会を定例化し、積極的な緩和ケアチームの参加
- ## (8) 臨床研究への参加
- ・ JPLSGなどの多施設共同研究（従来通り）
 - ・ 小児がん拠点病院を対象とした臨床研究が開始される予定
- ## (9) 行政（北海道）との連携

H25年度は北海道の委託事業により北海道内の小児がん診療の実態調査を実施

指定前後の変化

・進捗が無かった点／改善点

(1) 臨時キャンササボードシステムの構築

(対策)→院内では、定期のキャンササボードは構築されており、臨時キャンササボードは随時開催されてはいたが、臨時キャンササボードの開催体制はシステム化されていなかった。この点について腫瘍センターを中心にキャンササボード開催体制のシステム化を整備中である。
地域とは連携のためのテレビ会議などを用いたシステム整備が望ましいが、費用の関係で実現は困難であり、それに代わる方法を検討している。

(2) 院内学級の整備、特に教員の増員

(対策)→生徒数で教員数は決まるが、院内学級には教室での授業だけでなくベッドサイドに来てくれる教員の人数の上乗せが必要であり教育委員会との交渉が必要である。

(3) ファミリーハウスの増設や近郊のホテルなどとの連携で患者・家族が廉価な宿泊できる環境整備

(対策)→現在のファミリーハウスは常に満員であり、増設費用やホテル補助には一定の財政援助が必要である。

(4) 小児医療を目指す人材の確保

(対策)→教育、研修のシステムは構築され、専門医の国内外の研修も実現できたが、小児科や小児外科を志望する若い研修医が増加していない。小児医療の魅力について発信するなどの努力だけではなく、小児の診療報酬の増額など小児医療が病院経営に寄与できるような施策が必要である。
小児看護専門看護師はまだ育成できていない。大学院進学予定、受験予定を含めて仕事との両立を図れるような職場環境を整える。また、小児専門看護師を採用するべく募集を行っている。

事業実績報告

病院名：北海道大学病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

12百万円

・小児がん医療従事者研修事業

第1回小児がん拠点病院研修会
内視鏡外科手術トレーニングセット
教育用図書費
研修会用PC等

6百万円

・院内がん登録促進事業

がん登録統計ソフト等

1百万円

・がん相談支援事業

長期フォローアップノート印刷等

1百万円

・プレイルーム運営事業

おもちゃ、絵本、色紙等

1百万円

・入院患者家族支援事業

ファミリーハウス委託料
空気清浄機、炊飯器等

3百万円

今後の整備スケジュール

(1) 集学的治療及び標準的治療の提供

- ・ キャンサーボードの充実化(多職種の参加を促進)

初期治療時

再発・難治例

長期フォローアップ(成人の診療科との協力)

AYA世代の治療・フォロー

精子・卵子保存のほか、卵巣保存の実施に向けて準備中

2014

2015

2016

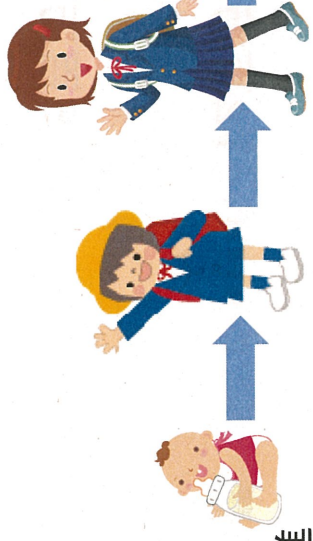
2017

(2) 地域連携

- ・ 地域の中核病院との連携推進

小児各分野の専門医による出張外来の充実化

成人診療科との連携強化



- ・ 新規治療や治験の推進

小児の陽子線治療に向けて審査中

小児がん関係新規薬剤・臨床研究の推進

2014

2015

2016

2017

今後の整備スケジュール

(3)人材確保、育成

勉強会・講演会の活性化(医師以外の職種の講師を増加させる)

外部講師による講演会開催

小児がん専門医、小児専門看護師の育成、児童精神科医・

女性ヘルスケア専門医・生殖医療専門医の育成

若手医師・看護師向けのセミナーや講演会の開催

2014

2015

2016

2017

(4)患者・家族への相談/支援体制

小児がん専任の相談員として、がん相談支援室に社会福祉士を採用

小児がん患者・家族用情報パンフレットの作成

相談員の資質向上のため積極的な研修参加を促進

2014

2015

2016

2017

小児がん地域ブロック整備の進捗状況について



北海道ブロック

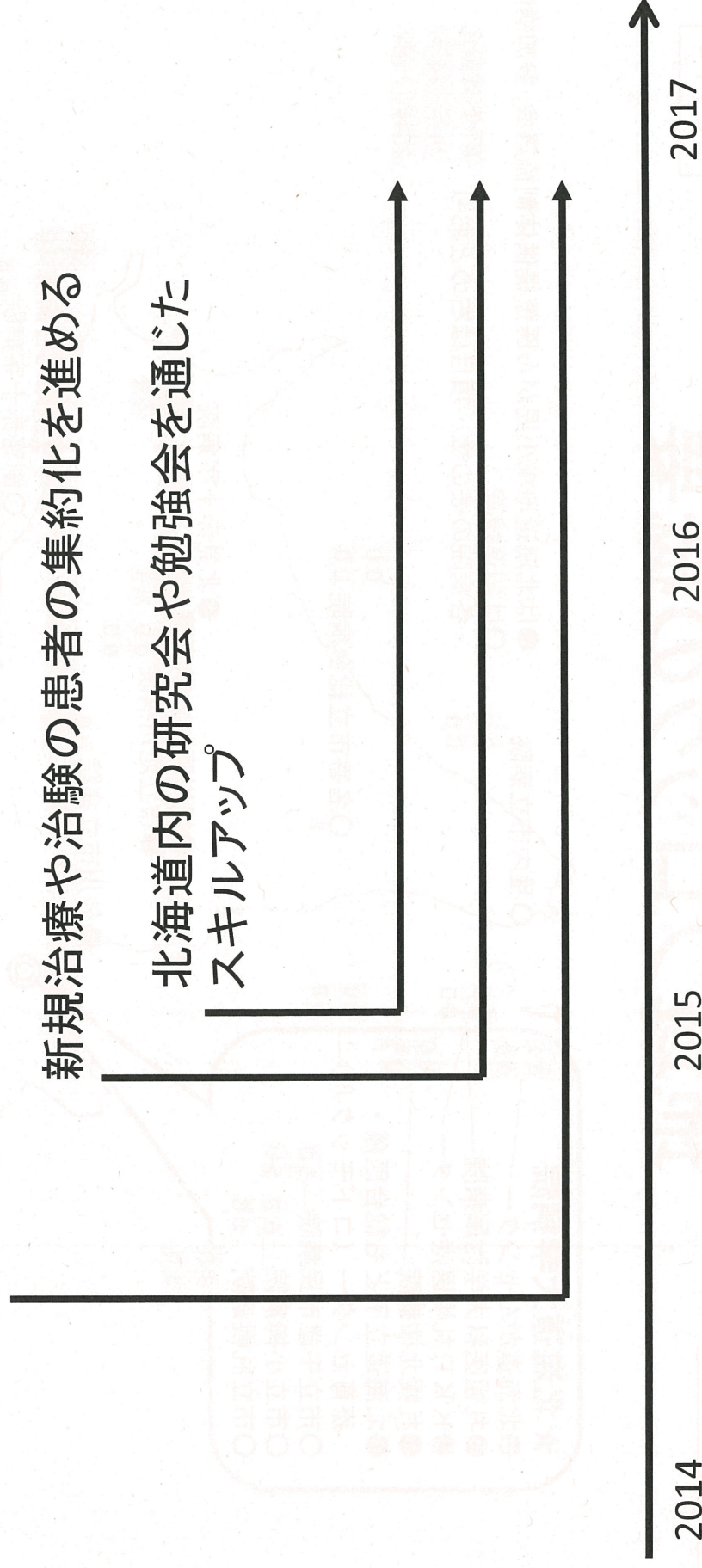
地域ブロックの概要



今後の整備スケジュール

(1)地域連携

道央圏と地域病院との連携強化による地域でのフォローアップ支援
地域の在宅医療機関との連携強化



今後の整備スケジュール

(2)人材育成

医療スタッフの学会参加および発表の促進

小児がん専門医、小児専門看護師の育成、診療情報管理士の育成

若手医師・看護師向けのセミナー・講演会の開催

2014

2015

2016

2017

北海道

北海道大学病院

(3)行政との連携

北海道における小児がん診療の実態等に関する調査結果取り纏め

北海道の支援を得て小児がん診療病院・地域中核病院との協議会を企画

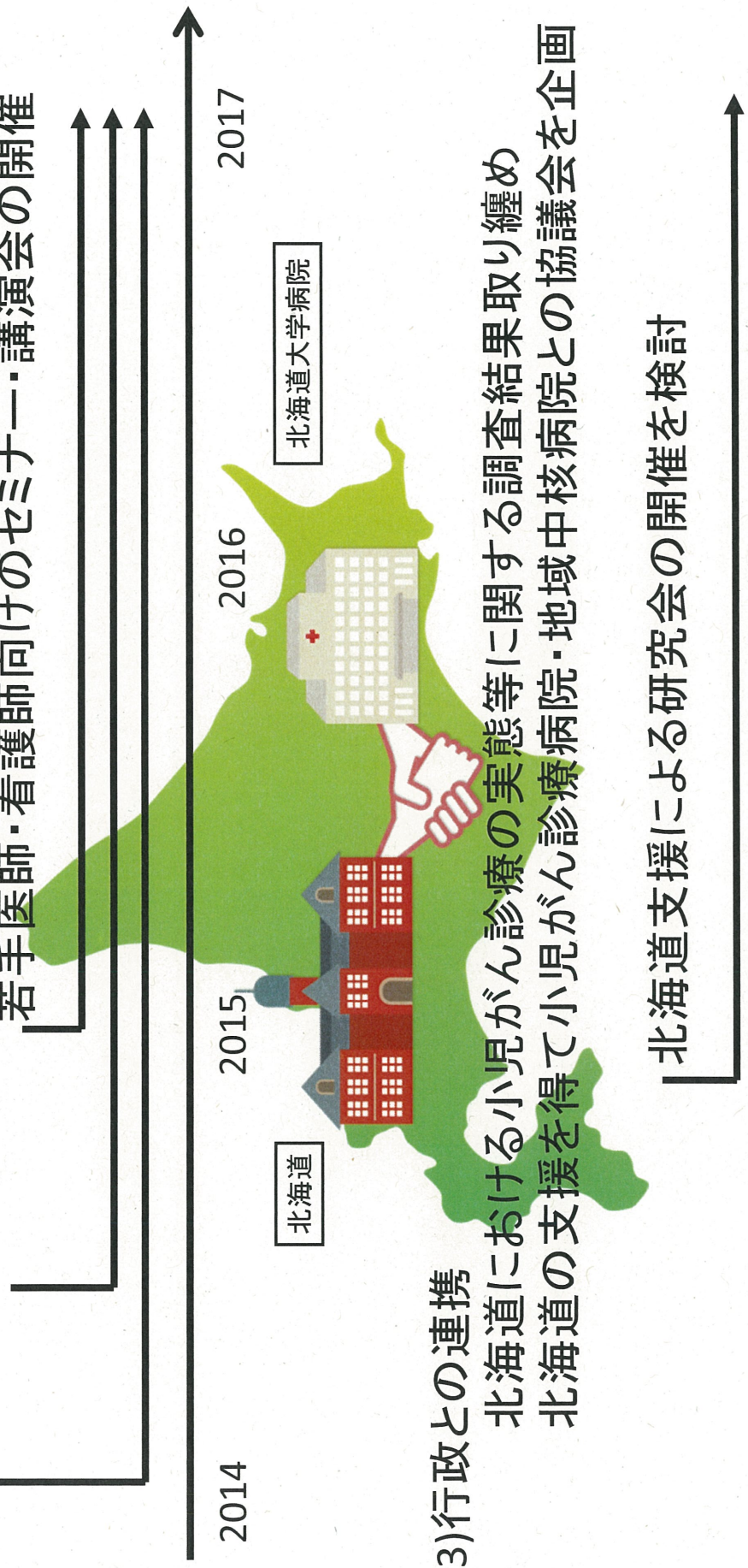
北海道支援による研究会の開催を検討

2014

2015

2016

2017



小児がん拠点病院整備の進捗状況 について

東北ブロック
東北大学病院

平成26年7月14日

診療実績

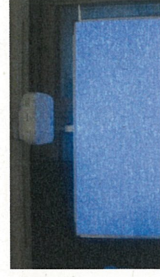
年間入院患者数の状況		診療実績										地域連携		緩和ケア		相談支援センター	
小児がん入院患者数		造血器腫瘍										小児がん患者の紹介を受けた医療機関数		緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数		相談支援センター相談件数	
		造血管腫瘍										他施設から紹介された小児がん患者数		小児がん患者の他施設への紹介患者			
		その他										その他		その他			
		脳・脊髄腫瘍										(12)		(15)		(36)	
		胚細胞腫瘍										(1)		(19)		(47)	
		軟部腫瘍										(2)		(3)		(30)	
		骨腫瘍										(1)		(5)		(30)	
		肝腫瘍										(1)		(0)		(3)	
		腎腫瘍										(1)		(2)		(0)	
		網膜芽腫										(1)		(1)		(0)	
		神経芽腫瘍群										(2)		(3)		(1)	
		ダウソ症TAM登録										(0)		(1)		(0)	
		その他の造血器腫瘍										(0)		(0)		(0)	
		その他の組織球症										(0)		(0)		(0)	
		組織球症LCH										(1)		(1)		(1)	
		組織球症HLH										(0)		(0)		(0)	
		その他のリンパ増殖性疾患										(0)		(0)		(0)	
		ホジキンリンパ腫										(0)		(0)		(0)	
		非ホジキンリンパ腫										(6)		(3)		(2)	
		MDS / MPDのうちCMLを除く										(0)		(0)		(0)	
		MDS / MPDのうちCML										(0)		(2)		(0)	
		まれな白血病										(0)		(1)		(0)	
		AML										(2)		(1)		(1)	
		ALL										(6)		(6)		(5)	
												(150)		(2)		(83)	
												149		5		1	
												144		4		3	

・ () 内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値 (平成23年1月~12月)、
中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値 (平成24年1月~12月)、
下段は平成25年1月から12月の数値 (平成25年1月~12月)

- ✖



3
✕



4. 図



指定前後の変化

・ 進捗が無かった点(理由と対応策)

1. 症例数の増加

小児がん初発症例発生数による。

病棟セクション域工事に伴い一定期間の入院患者数制限が必要になる。
他県からの紹介症例数がまだ少ない。

>> 東北大学病院の小児がん拠点病院後の進捗を周知する。

東北地区全体として、小児がん診療病院との連携を強化する必要がある。

2. 小児がん専門医の増員

これまで大学院生、海外留学、国内留学の医師が多かった。

>> 上記を修了し、小児血液・がん学会専門医資格を満たす医師が増えており、今後増員が見込まれる。
院内および東北ブロックにおける小児がん研修会を定期的に開催し、研修体制を整える。

3. CLSの新規雇用

雇用の予算確保および他職種との業務連携体制が必要である。

>> CLSと他職種との業務の住み分けを明確にした上で、募集を継続する。

4. 患者家族の病院内宿泊施設の設定

設置・運営の予算確保および敷地確保が困難である。

>> 現存のラッコハウスとせんだいハウスとの連携を強化する。
Social Workerを通じて、入院の御家族への紹介を継続する。

5. AYA世代への支援体制整備

診断治療体制は整っているが、就学支援体制の構築が難しい。

>> 行政や私立高校への働きかけを行う。

6. 在宅医療体制の整備

小児がんのみならず、小児在宅医療体制自体が途上にある。

>> 医師以外の職種との在宅医療勉強会を予定しており、体制の必要性を強調していきたい。

事業実績報告

病院名：東北大学病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

13,830万円

・小児がん医療従事者研修事業

0,880万円

小児がん総合カンファレンスを週1回開催
宮城県立こども病院合同カンファレンスを月1回開催

・院内がん登録促進事業

1,450万円

院内のがん登録業務の品質管理と精度向上に努めた。

・がん相談支援事業

3,410万円

臨床心理士により子供が心に傷を負うことのないように
心理的支援を行った。

・プレイルーム運営事業

4,320万円

保育士による支援と不足あるいは老朽化していた物品
等を購入し、快適性の向上に努めた。

・入院患者家族支援事業

3,770万円

病棟内家族待機室の設備の充実と簡易ベッド等を購入し、
付添家族の生活環境の向上に努めた。

今後の整備スケジュール

- ・集学的治療及び標準的治療の提供

小児腫瘍センターの充実、機能化

病棟セミクリーン域と新規プレイルーム設置

他科合同および小児がん総合カンファレンスの継続

難治性神経芽腫に対する医師主導型治験（東北大学病院臨床研究推進センター）

緩和医療チームとの連携強化

長期フォローアップ体制の充実

AYA世代への対応改善

- ・地域連携

遠隔医療体制の充実

小児がんに関する定期的な勉強会の開催

小児がん在宅医療への取り組み

乳児白血病に関する東北メディカルバンク機構との共同研究

- ・その他

病院HPに小児がん拠点病院サイトの開設・更新、マスメディアによる情報発信

2014.7

2015.4

2016.4

2017.8

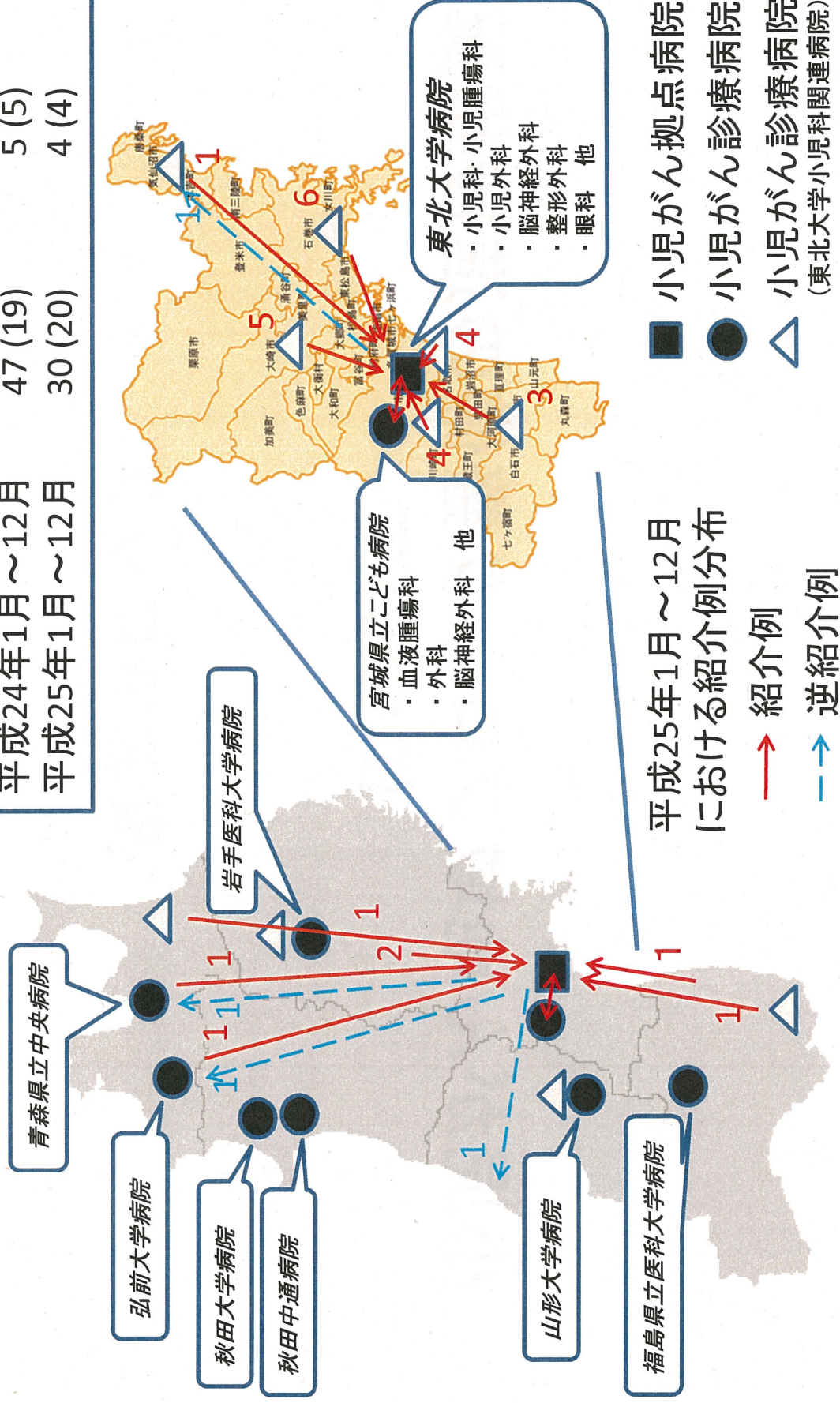
小児がん地域ブロック整備の進捗状況 について

東北ブロック

平成26年7月14日

地域ブロックの概要

関連施設からの	患者紹介数 (医療機関数)	逆紹介数 (医療機関数)
平成23年1月～12月	36 (15)	2 (2)
平成24年1月～12月	47 (19)	5 (5)
平成25年1月～12月	30 (20)	4 (4)



今後の整備スケジュール

・地域連携

東北地区小児がん医療提供体制協議会の定期的開催

小児がん診療病院間の連携強化

長期フォローアップ体制の連携強化

講演会や会合を通じた患者会との交流

・人材育成

小児がん専門医の育成・人材育成

東北がんプロフェッショナル養成推進プランによる勉強会の開催

日本小児血液・がん学会後援による小児がんに関する勉強会の開催

小児がん診療スタッフのための定期的な小児がん・白血病セミナーの開催

東北小児がん研究会

東北小児白血病研究会、東北小児白血病セミナー

・その他

遠隔医療体制設備の充実

2014.7

2015.4

2016.4

2017.8

小児がん拠点病院整備の 進捗状況について

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況		診療実績										地域連携		緩和ケア	相談支援センター							
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	M D S / M P D のうち C M L を除く	(0)	0	4	固形腫瘍	その他	脳・脊髄腫瘍	(23)	20	9	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	(70)	83	74	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数		
		M D S / M P D のうち C M L	(1)	0	0			胚細胞腫瘍	(3)	7	8		(9)	12	8	(36)					40	36
		まれな白血病	(0)	0	0			軟部腫瘍	(4)	7	2		(50)	55	52	0					0	0
		A M L	(4)	6	5			骨腫瘍	(4)	3	4		(70)	83	74							
		A L L	(13)	10	20			肝腫瘍	(0)	6	1											
								腎腫瘍	(6)	4	0											
								網膜芽腫	(3)	3	5											
								神経芽腫瘍群	(3)	7	7											
								その他のリンパ増殖性疾患	(1)	0	0											
								ホジキンリンパ腫	(1)	0	0											
								非ホジキンリンパ腫	(3)	1	3											

・上段（ ）内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書（平成23年1～12月）の数値、
中段は平成25年12月末提出の現況報告（平成24年1～12月）の数値、
下段は平成25年1～12月の実績

指定前後の変化

・進捗があった点

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS) 2名配置

平成26年1月チャイルド・ライフ・スペシャリスト2名雇用したことにより、小児医療センターにおける子どもへの処置・検査中の精神的サポートやプリパレーション（心の準備のサポート）等を行うことが出来るようになり、子どもが主体的に治療に臨める環境づくりが強化された。

また、多職種との連携強化のため、チャイルド・ライフ・スペシャリストという職種への理解や、子どもへの具体的な対応の仕方について積極的に講義を行っている。

長期フォローアップにおけるトランジショナルケア外来開設

これまでも小児科及び小児外科による小児がん長期フォローアップシステムがあり、治療終了後の患者に対して定期的にフォローアップを継続しているが、平成26年度に大学病院の診療部門としては、わが国初の開設となるトランジショナルケア外来を開設した。トランジショナルケア外来では、成人期に達した小児慢性疾患の患者さんが成人診療科へ円滑に移行するためのサポートを実施する。これにより、今まで行われていた長期フォローアップに関して、より明確に患者さんに認識していただける状況が整備された。

行政との連携

- ①福岡県庁ホームページ「小児がん」の項目において、本院の小児がん拠点リーフレットや九州・沖縄地域小児がん医療提供体制組織図を掲載している。また、同リーフレットは小児がん拠点病院14施設及び全国の各県庁がん対策担当へ配布済である。
- ②福岡県がん対策推進協議会の構成員として、全国に先駆けて「福岡県がん対策アクションプラン」に小児がん対策の充実のための取組を定めた。

テレビ会議システムの構築

テレビ会議のシステムを、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会を構成するすべての施設に整備したことで、九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議、更には各施設で行われる小児がんに関する研修カンファレンス、症例検討会などをテレビ会議で開催することが可能となった。

指定前後の変化

・進捗が無かった点

相談支援体制

相談支援の体制を構築するため、相談員として配置予定であるチャイルド・ライフ・スペシャリストの国立がん研究センター主催「相談員研修」修了後、速やかに相談支援の窓口を設置できるよう以下の準備を行う。

- ①小児がん相談支援窓口の専用回線（ホットライン）を整備する。
- ②がん相談支援室と連携し、小児がんに関わる相談支援の体制を構築する。
- ③相談者・電話相談者の状況に応じて臨機応変に対応できるよう、小児がん治療に関する情報収集を行う。

長期滞在施設

本院の近隣に設置されている小児がんを含む小児入院患者の家族向け宿泊施設について、これらの整備及び運営を促進していくため、「小児がん拠点病院機能強化事業」の「入院患者家族支援事業」により小児入院患者の宿泊費用の一部を軽減するための補助を実施できるよう、宿泊利用者数の把握、稼働率の調査を行う。

院内がん登録

院内がん登録事業を進めるにあたって、以下の実施が必要である。

- ①小児がん院内がん登録担当者の「院内がん登録実務者研修」受講。
- ②現在の学会ベースや国の事業で行われている複数の登録システムを整理し、院内がん登録システムとの連携が可能な状況とする。

事業実績報告

●実績報告に記載の項目

病院名：九州大学病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

23百万円

・小児がん医療従事者研修事業

6百万円

・院内がん登録促進事業

6百万円

・がん相談支援事業

3百万円

・プレイルーム運営事業

8百万円

・入院患者家族支援事業

0百万円

今後の整備スケジュール

【集学的治療及び標準的治療の提供】

(1) チームによる実施体制

本院は、主に小児医療センターにおいて、医師（小児科、小児外科、放射線科、整形外科、脳神経外科、眼科、産婦人科、泌尿器科、精神科神経科、心療内科、麻酔科及び小児歯科・スペシャルニースペシャリスト等）・看護師・薬剤師・放射線技師等のスタッフによる集学的治療を施行している。平成26年の『チャイルド・ライフ・スペシャリスト』の採用により、小児がん患者及び家族の心のケアに関して更なる充実を図っていく計画である。

(2) 専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の確保及び配置

保育士2名、チャイルド・ライフ・スペシャリスト2名を配置しているが、今後小児がん拠点病院機能強化事業費にて継続雇用すると共に、九州・沖縄地域の協力病院との連携の中で、小児がん拠点病院のスタッフとしての役割を整理していく予定である。

(3) 再発がん及び難治がんへの対応

本院は小児がん患者の家族の不安や疑問に適切に対応すると共に、療養上の相談やセカンドオピニオンの依頼に対し、その分野の専門医師が対応してきた実績が多くある。今後も、再発がん及び難治がんへの対応として、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、その他スタッフによる小児がんに関する相談支援窓口の設置やセカンドオピニオンなどを充実させ、必要があれば転院を受け入れる。

(4) 患者が増えた場合の病床確保等の対応方法

小児医療センターには、一般病床が52床有しており、これに加えて小児がんに限らず他科の小児患者が入院可能な共通病床を23床有している。今後小児がん患者が増加した場合、同共通病床を優先的に使用させることが可能である。

(5) 思春期のがん患者への診療体制

小児医療センターにおいては、がん患者は基本的に高校生に至るまで診療している。

①小児慢性特定疾患などの制度の適応

②同年代の患者とのコミュニケーション

③患者年齢と理解度を考慮した医療者による説明

④心のサポート（精神科神経科、心療内科及び臨床心理士と連携）

⑤勉強のサポート体制・復学支援

それ以外に、高校生及び大学生の勉学のための部屋の確保、また中学生を含む思春期のがん患者同士のコミュニケーションの充実のための、専用スペース確保を計画している。

(6) 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制

小児医療センターにおいて「医師に対する緩和ケア研修会」及び「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の終了者より構成された小児専門の小児がん緩和ケアチームが、小児がん患者に対し日常的に緩和ケアを実施している。平成26年度にはメディカルスタッフの養成・教育に力を入れ、更にチャイルド・ライフ・スペシャリストの参画により体制を強化していく。

【地域連携】

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制（小児がん診療病院）

九州・沖縄地区小児がん医療提供体制協議会

[illegible]

各県の組織体制

ローアブシステムの体制を確認し、連携可能な形としていく。

をより緊密にする取り組みを現在行っている。院内での統合化がある程度達成された後は同取り組みを九州・沖縄地域の小児がん診療病院ともフォロアアップする取組を行っている。

小児科、小児外科、他科におけるフォロアアップ体制は今後も継続するが、それぞれに存在するフォロアアップシステムの統合を図り、情報共有

福岡県内において定められた「福岡県がん対策アクションプラン」を軸に、九州・沖縄地域における小児がん対策を推進する。

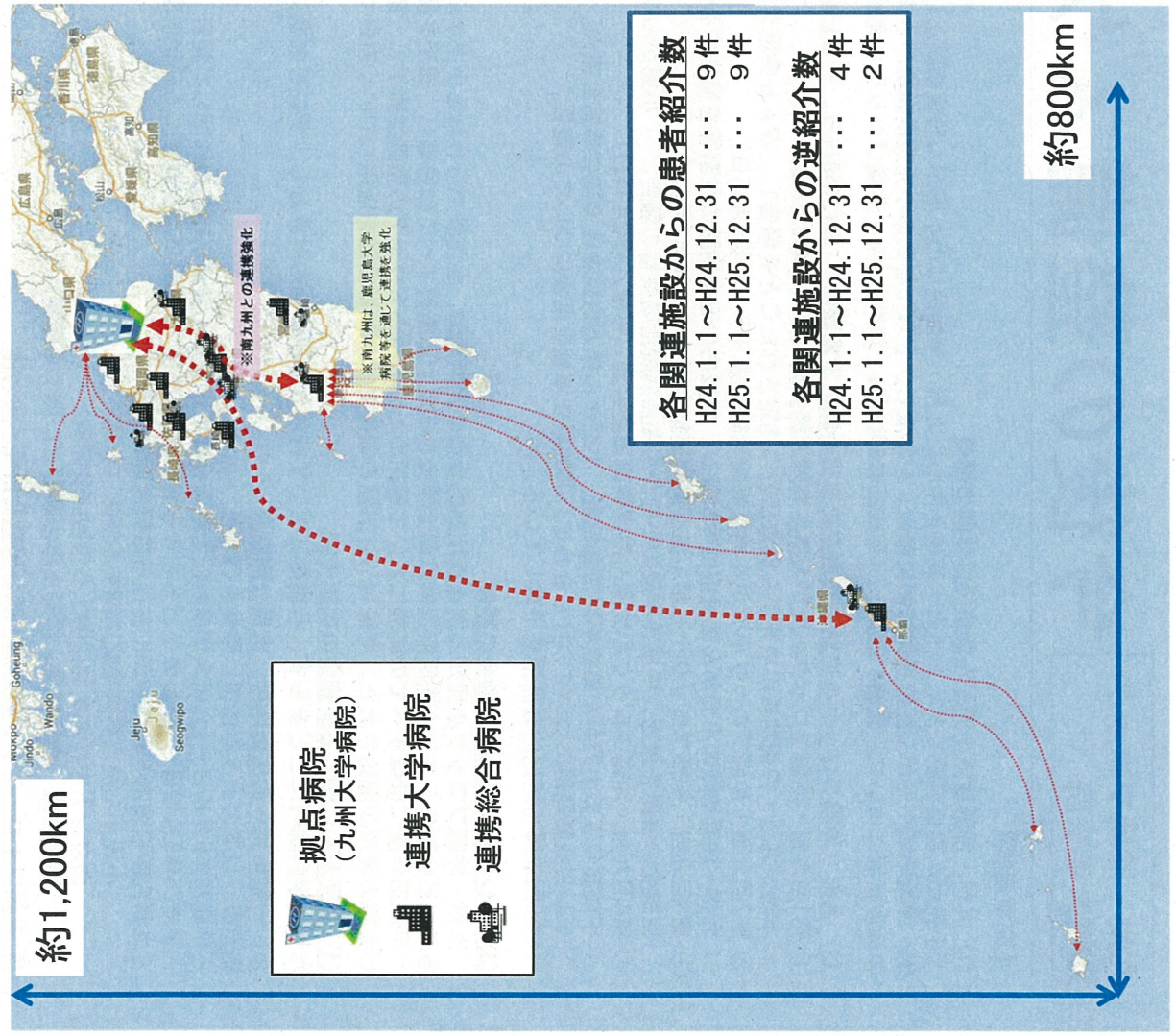
- ・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ

平成26年度中に小児がん拠点病院事務局に小児がん相談支援窓口を設置し、養成・教育を受けたチャイルド・ライフ・スペシャリストを相談員として配置。相談者の状況に応じて臨機応変に対応する。相談支援の広報においては、九州・沖縄地域における小児がん診療病院や各県の行政機関等と連携し、広報を行う。小児がん患者団体とは今後も定期的に交流会や講演会を開催する。

小児がん地域ブロック整備の 進捗状況について

九州・沖縄ブロック

地域ブロックの概要



九州・沖縄地域における小児がん診療病院

県名	病院名
福岡県	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター
	産業医科大学病院
	久留米大学病院
	福岡大学病院
佐賀県	佐賀大学医学部附属病院
	佐賀県立病院好生館医療センター
長崎県	長崎大学病院
熊本県	熊本大学医学部附属病院
	熊本赤十字病院
	国立病院機構熊本医療センター
大分県	大分大学医学部附属病院
	大分県立病院
宮崎県	宮崎大学医学部附属病院
	宮崎県立宮崎病院
鹿児島県	鹿児島大学病院
	鹿児島市立病院
沖縄県	琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

【地域連携】

(1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制の構築

小児がん拠点病院である九州大学病院を中心に九州・沖縄地域の小児がん診療病院として各県にある大学病院と総合病院の委員から構成される「九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会」を結成し、さらに各県の小児連携病院から支持される医療連携体制を構築した（「小児がん拠点病院整備の進捗状況について」資料4 図）。（平成25年6月15日：第2回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会）

(2) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会の定期開催・・・年に2回行う。テレビ会議システムを利用して行う。

- ① 第1回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会（平成25年3月9日）
本院が九州・沖縄地域の小児がん拠点病院に指定されたことを報告し、Web会議システムを導入することについて、関係医療機関へ説明した。
- ② 第2回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会（平成25年6月15日）
九州・沖縄地域の小児がん医療提供体制及び、地域内の連携病院の役割等を協議する協議会の設置・構成について承認を得た。
- ③ 第3回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会（平成26年2月22日）
協議会の会則を確認。平成25年度の小児がん拠点病院活動要旨の報告。小児がん中央機関の指定、JCCG設立準備委員会についての報告。
- ④ 第4回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会（平成26年6月14日）
平成26年度の小児がん拠点病院活動報告。小児がん拠点病院連絡協議会準備会報告。
テレビ会議運用についての打ち合わせ。JCCG設立準備委員会についての報告。
〈第5回以降も定期的な開催を予定している。〉

(3) テレビ会議による協議会の開催

九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会の定期開催、各施設で行われる小児がんに関連する研修カンファレンス、症例検討会などに運用できるテレビ会議のシステムを医療提供体制協議会を構成する施設すべてに整備し、運用を開始する。
平成25年度にほぼすべての施設において運用のためのハードウェアの整備は終了し、第4回拠点病院連絡協議会の終了後、平成26年6月23日より、テレビ会議の運用が開始された。今後1か月に1回の頻度で、テレビ会議を活用していく方針である。

(4) 小児がんに関する研修会の実施予定

九州大学病院内にとどまらず、各施設において行われる研修会も対象とし、テレビ会議システムを利用した実施を計画している。

(5) 一般市民への広報活動、市民公開講座

- 指定後、以下のような広報、啓発を行った。
- ・平成25年5月15日・・・九州大学病院記者懇談会にて小児がん拠点病院指定に関して報告
 - ・平成25年5月19日・・・がんの子どもを守る会 九州北支部 第38回がん交流会にて公開講座
 - ・九州大学病院ホームページにおける広報活動の充実

小児がん拠点病院指定に関する情報（公開済）

セカンドオピニオンに関する情報（公開済）

新規治療（臨床試験、医師主導治験など）に関する情報

(6) 長期フォローアップの方法、及び晩期合併症への対応

フォローアップに関して

九州大学病院においては平成26年度より小児医療センターとしてトランジション外来の標榜を開始した。今まで行われていた長期フォローアップに関してより明確に診療部署の開設ということで患者さんに認識していただける状況を整備した。

小児科、小児外科、他科におけるフォローアップ体制は今後も継続するが、それぞれに存在するフォローアップシステムの統合を図り、情報共有をより緊密にする取り組みを現在行っている。九大病院内での統合化がある程度達成された後は同取り組みを九州・沖縄地域の小児がん診療病院ともフォローアップシステムの体制を確認し、連携可能な形としていく。

(7) 小児がん登録事業に関して

現在、小児がん登録は院内がん登録、学会基盤の小児がん登録など複数の小児がん登録事業があるため、非常に複雑化している。その中で本院は歴史的に九州・沖縄地域のセンター的役割を担ってきた経緯がある。複雑化している原因のひとつとして、担当部署が各病院によって異なることが挙げられるため、今後5年以内に担当窓口を九州・沖縄地域の小児がん診療病院の事務担当部署に統一し、九州大学病院小児がん拠点病院事務局が取りまとめを行い、今後の登録一元化に関しての方向付けを行う。

(8) 行政との連携

福岡県内においては、福岡県がん対策推進協議会及び福岡県がん診療連携協議会等を通じて、本院を中心とした地域の医療機関との連携協力体制の構築を行う。また、九州・沖縄地域内における福岡県外の行政機関へは、各県の連携大学病院等を通じ、連携を深める計画である。

【人材育成】

(1) 小児がんに関する研修の実施予定

① 九州山口小児血液・腫瘍研究会

- ・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ
- ・開催時期：毎年1回、6月頃に開催予定。
- ・九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会も本研究会開催に合わせて行い、参加が困難な地域についてはテレビ会議システムを利用する。
- ・研修会内容：小児血液・腫瘍に関する一般演題、教育講演及び特別講演等

② 九州地区小児固形悪性腫瘍研究会

- ・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ
- ・開催時期：毎年1回、2月または3月に開催
- ・九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡協議会も本研究会開催に合わせて行い、参加が困難な地域についてはテレビ会議システムを利用する。
- ・研修会内容：小児固形腫瘍に関する一般演題及び特別講演等

③ 九州大学病院がんセンター主催の医療従事者研修会

- ・対象者：医師、看護師、その他がん医療に従事するメディカルスタッフ
- ・年1回程度開催予定
- ・研修会内容：口腔ケアを中心とした緩和ケア（予定）

④ その他（予定）

本院のがんセンターと連携し、随時、小児がんに関する連携医療機関の医師・メディカルスタッフ等への研修を実施する。

(2) 拠点病院間及び拠点病院と小児がん診療病院等との小児がん医療従事者の人材交流

① 九州大学病院では、小児がん診療医師育成プログラムを実施している。
本プログラムによる小児がん診療医師の育成を継続的に行うことに加え、研修を受けた医師が、九州・沖縄ブロックの小児がん診療病院で小児がん診療に係わる医療循環を形成していく。今後、実施に向けての話し合いを進める。

② 研究会・カンファレンス・勉強会を含めた育成プログラムも定期的に開催している。本プログラムは、本院の関係者以外の全ての小児がん診療病院の関係者に門戸は開かれている。当院のみのプログラムだけでなく、テレビ会議に参加が可能な施設における育成プログラムも可能なものは積極的に取り入れていくための話し合いを進める。

小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績	地域連携	緩和ケア	相談支援センター
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数
	その他	他施設から紹介された小児がん患者数		相談支援センター相談件数
	固形腫瘍			
	脳・脊髄腫瘍			
	胚細胞腫瘍			
	軟部腫瘍			
	骨腫瘍			
	肝腫瘍			
	腎腫瘍			
	網膜芽腫			
	神経芽腫瘍群			
	ダウソ症TAM登録			
	その他の造血器腫瘍			
	その他の組織球症			
	組織球症 LCH			
	組織球症 HLH			
	その他のリンパ増殖性疾患			
	ホジキンリンパ腫			
	非ホジキンリンパ腫			
	MDS / MPDのうちCMMLを除く			
	MDS / MPDのうちCMML			
	まれな白血病			
	AML			
	ALL			
(33)		(28)	(6)	(3)
76		(16)	11	3
114		30	21	10
		39	39	73

・（ ）内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値、下段は平成25年12月末提出の現況報告の数値

指定前後の変化

・ 進捗があった点

(ア) 集学的治療及び標準的治療の提供

- ① 医療福祉相談支援センター内にあった「小児在宅医療支援部」を、平成25年9月に「小児トータルケアセンター」として改組・設置し、現在、医師2名、看護師1名、臨床心理士1名、MSW1名、事務員1名で活動を開始した。

- ② 小児トータルケアセンターが主催した研究会等

●「三重県小児在宅研究会」の開催 <4回>

【対象者】：医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、言語聴覚士、ソーシャル・ワーカー、行政担当者、保健師、教員、相談員、事務員、学生

開催日（参加者数）

1. 平成25年9月22日（124名）
2. 平成25年12月22日（106名）
3. 平成26年3月23日（142名）
4. 平成26年6月29日

●「小児がん緩和研修会」の開催 <3回>

【対象者】：医師、看護師、緩和ケアチーム及び小児トータルケアセンタースタッフ

開催日（参加者数）

1. 平成25年10月31日（25名）
2. 平成25年12月10日（30名）
3. 平成25年12月17日（15名）

- ③ 平成26年6月、本院がんセンター内に各診療科横断的な手術療法、放射線療法及び化学療法を組み合わせた集学的治療と緩和ケア治療を行うための「小児がん集学的治療部門」を組織した。今後は診療連携体制を強化し、症例に応じた専門医療チームで、組織的な治療を充実させていく。

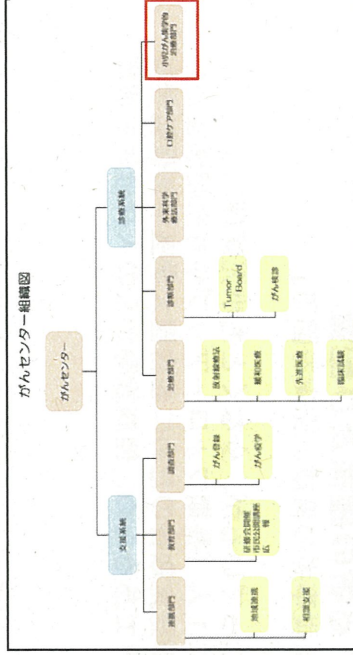
- ④ 小児病棟においては、CLS1名、保育士2名の増員を行い、CLS2名・保育士3名合計5名の体制とし、患児の療養支援体制が充実した。

(イ) 地域連携

- ① JPLSG造血器腫瘍免疫診断センターとして平成25年および26年の1年間にそれぞれ237件および339件の新規白血病、悪性リンパ腫の診断を行った。また、再発リスクの診断として微少残存腫瘍の解析についても平成25年および26年の1年間でそれぞれ340検体および890検体の解析を行った。

(ウ) その他

- ① 小児がん研修プログラムへの小児がん診療医師の受入（平成24年～平成25年）
・ 宮崎大学から1年間：1名
・ 豊橋市民病院から2年間：1名
・ 岐阜市民病院から3ヶ月：1名
- ② 本院小児科に入院した小児がん経験者の会「ひとと樹」が結成され、情報交換会を定期的に開催するほか、平成25年度は小児がんキャンペーンへもピアサポーターとして参加し、相談会を開催して頂いた。
- ③ 本院臨床研究開発センターに専任の教授（H26年1月）及び講師（H25年1月）を配置することにより基盤整備を行った。



指定前後の変化

・ 進捗が無かった点

(ア) 集学的治療及び標準的治療の提供

●専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び要領を支援する者の確保及び配置

「看護師においては小児看護専門看護師等の専門的な知識、技能を有する医療従事者の育成、充実を図る」

・小児看護専門看護師の育成、充実が図れていない。

→

【改善】現在は小児トータルケアセンターに1人の配置となっているが、少なくとも小児病棟に1人（小

児がんのケアモデルになれる人材）、小児科外来に1人（長期フォローアップや外来相談担当）の配置が望ましい。現在1名、小児看護専門看護師認定取得のために名古屋大学医学部保健学科修士課程に在籍しているが、終了は平成28年3月であるため、他施設等からの人材確保も積極的に取り組み、早期に充実が図れるよう努める。

●思春期のがん患者への診療体制

「小児病棟内に思春期のがん患者のためのティーンエイジルームを確保」

・ティーンエイジルームが確保できていない。

→

【改善】高校生や大学生が、病室とは異なる空間で自学自習や読書をしたり、同世代で談話ができる部屋を整備し、療養支援体制を充実させることの必要性を強く認識している。病棟内の関係診療科との調整を図り、体制の整備を進める。

(イ) 地域連携

●患者を受け入れる主な地域

「他県医療機関では十分な対応ができない難治性の疾患の診断、治療は、小児がん拠点病院が中心となってコンサルテーションや患児の受入について責任を持って対応する。」

・コンサルテーションの環境整備が不十分。

→

【改善】平成25年度の、電話やメールによる医療関係者からの診断・治療に関するコンサルテーションの相談は21件にとどまった。今後は、本院ホームページ上に小児がん拠点病院のバナーを作成し、医療関係者だけでなく患者家族もセカンドオピニオン等について相談しやすい体制を整える。

事業実績報告

病院名: 三重大学医学部附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

13. 3百万円

- ・小児がん医療従事者研修事業
.....研修会講師報償費 他
1. 0百万円
- ・院内がん登録促進事業
.....
0百万円
- ・がん相談支援事業
.....人件費(がん相談従事者)他
3. 2百万円
- ・プレイルーム運営事業
.....人件費(CLS他)
9. 1百万円
- ・入院患者家族支援事業
.....
0百万円

今後の整備スケジュール

(ア)集学的治療及び標準的治療の提供

1. 新外来棟建設 ……平成27年5月7日開院予定

(1)外来通院患児が不安なく治療に専念できる診療環境整備

- ① 外来化学療法部の中に、小児専用の診察及び治療のためのスペースを整備する。
- ② 小児科外来の診察室を現病院より2室増室する他、プレイルームを整備する。

(2)小児トータルケアセンターの配置エリア新設

- ① スタッフを集約配置し、効率的・機能的な運用を図る。

2. 小児がん集学的治療部門の活動を開始

小児がん集学的治療部門の活動においては医師だけでなく、多職種が参加し、ケースカンファレンス、Tumor Boardの活動を行っていく。このほか、講演会・研修会も開催していくが、これらには医師のほか、看護師、薬剤師、臨床心理士、保育士、CLS、MSWなど、小児がんに関わる全ての職種が参加できるものにする。

(イ)地域連携

1. セカンドオピニオン等、相談しやすい体制作り

本院ホームページ上に、本院が小児がん拠点病院のバナーを作成し、そこからアクセスすることで医療関係者からの診断・治療に関するコンサルテーションはもとより、患者家族もセカンドオピニオン等について相談しやすい支援体制を整える。

(ウ)その他

1. 新外来棟建設 ……平成27年5月7日開院予定

(1)院内学級の充実

- ① 専用の相談室、トイレを備え、小児病棟から直接9mの距離に位置し、患児にとって利便性に優れた新しい院内教育施設を整備する。

2. 長期滞在施設建設 ……平成26年9月初旬運用開始予定

- ① 本院敷地内に、1LDK2室を有する宿泊施設(ハーモニーハウス)を建設する。
- ② 本院敷地内に建設する利便性を考慮し、滞在施設としての利用だけでなく、小児がん患者家族の休憩やコミュニケーションの場として活用する。

今後の整備スケジュール

(ア) 集学的治療及び標準的治療の提供 (イ) 地域連携 (ウ) その他

(ア) 2. 小児がん集学的治療部門の活動(平成26年6月)

(1) 小児がん集学的治療部門主催のケースカンファレンス・講演会・研修会等を開催していく。

(ウ) 2. 長期滞在施設建設(平成26年9月)

- ① 本院敷地内に、1LDK2室を有する宿泊施設(ハーモニーハウス)を建設する。
- ② 本院敷地内に建設する利便性を考慮し、滞在施設としての利用だけでなく、小児がん患者家族の休憩やコミュニケーションの場として活用する。

(イ) 1. セカンドオピニオン等、相談しやすい体制作り(平成26年11月)

- (1) 本院ホームページ上に小児がん拠点であることのバナーを作成し、そこからアクセスすることでセカンドオピニオンの申込ができる仕組みを構築する。



(ア) 1. 新外来棟建設 ... 平成27年5月7日開院予定

- (1) ① 外来化学療法部の中に、小児専用の診察及び治療のためのスペースを整備する。
- ② 小児科外来の診察室を現病院より2室増やす他、プレイルームを整備する。

(2) ① 小児トータルケアセンターの配置エリア新設

→ スタッフを集約配置し、効率的・機能的な運用を図る。

(ウ) 1. 新外来棟建設 ... 平成27年5月7日開院予定

- (1) 院内学級の充実 ① 専用の相談室、トイレを備え、小児病棟から結核得9mの距離に位置し、患児にとって利便性に優れた院内教育施設を整備する。

平成26年

平成27年

平成28年以降



小児がん拠点病院整備の 進捗状況について

関東ブロック

神奈川県立こども医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況		診療実績				地域連携		緩和ケア	相談支援センター
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	ＡＬＬ	(12)	17	7	10	7	(563)	相談支援センター相談件数
		ＡＭＬ	(4)	7	10	7	7	(4)	
		まれな白血病	(0)	2	1	1	2	(0)	
		ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	(1)	0	1	1	0	(1)	
		ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	(3)	4	2	1	4	(3)	
		非ホジキンリンパ腫	(0)	1	0	0	1	(0)	
		ホジキンリンパ腫	(0)	0	0	0	0	(0)	
		その他のリンパ増殖性疾患	(1)	1	2	1	1	(1)	
		組織球症　　ＨＬＨ	(1)	5	3	0	5	(1)	
		組織球症　　ＬＣＨ	(0)	0	0	0	0	(0)	
		その他の組織球症	(0)	0	0	0	0	(0)	
		その他の造血器腫瘍	(0)	2	1	2	0	(0)	
		ダウン症ＴＡＭ登録	(4)	3	6	3	4	(4)	
		神経芽腫瘍群	(2)	0	6	3	2	(2)	
		網膜芽腫	(4)	5	3	4	5	(4)	
		腎腫瘍	(4)	7	4	7	4	(4)	
		肝腫瘍	(2)	1	2	1	1	(2)	
骨腫瘍	(0)	4	3	4	4	(0)			
軟部腫瘍	(2)	1	3	1	1	(2)			
胚細胞腫瘍	(8)	11	13	11	11	(8)			
脳・脊髄腫瘍	(2)	3	1	3	3	(2)			
その他	(2)	3	1	2	2	(2)			
その他	(51)	67	81	67	81	(51)			
他施設から紹介された小児がん患者数	(40)	44	53	44	53	(40)			
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	(71)	197	141	197	141	(71)			
小児がん患者の他施設への紹介患者	(10)	8	8	8	8	(10)			
緩和ケアチームが新規診療した小児がん患者数	相談支援センター相談件数								
		122							

・（ ）内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値、中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値、下段は25年1月から25年12月までの数値

● 進捗があった点

第1 集学的治療及び標準的治療の提供

- 症例毎にキャンサードを開催し、平成26年1月から6月まで計20件の症例検討を行いました。開催にあたっては地域の連携病院に開催の通知を行いました。
- 昭和大学北部病院、昭和大学藤が丘病院、横須賀市立うわまち病院、横浜国立大学附属病院を交た定期的な症例検討会を開催しました。
- 平成25年11月に緩和ケア外来を開設し、緩和ケアの提供対象を入院患者だけでなく外来患者にも拡大した。
- 平成26年3月に外来化学療法室を整備し、現時点で5名の小児がん患者に対し、骨髄抑制などの副作用が強い化学療法を外来で施行しています。
- 化学療法を中心とした小児がん治療の安全性向上のため、栄養サポートチームによるすべての小児がん入院患者の栄養管理、口腔衛生管理を行う体制を整備しました。
- ALL-B12などJPLSGが行う臨床試験に積極的に参加しています。
- 平成25年4月に医師4名（うち1名専従）、看護師4名（うち1名専従）、薬剤師、臨床心理士、保健師及び医療ソーシャルワーカーからなる「緩和ケア普及室」を設置し、更に緩和ケアチーム（Palliative Care Team: 以下PCT）にファシリテッド及び、そのハンドラーを加えることで、その体制の強化を図りました。
- PCT専従医師・看護師による毎日の病棟ラウンドに加え、毎週一回のPCT回診を通じてセンター内で提供されている緩和ケア、新たな緩和ケアのニーズの把握に努めています。

第2 地域連携

- 横浜、横須賀地区の他の小児がん診療施設とともに合同の症例検討会を開催し、これらの施設との連携強化に取り組みしました。
- 県内の他の医療機関、関東甲信越地区小児がん拠点病院を対象とした緩和ケアセミナー、小児がん拠点病院看護師交流研修を開催しました。
- 小児血液・腫瘍専門医を育成するため、シニアレジデント2名の研修を行っています。
- 成人型の消化器がんを発症した小児例に対し、横浜市立大学附属病院第2外科と緊密に連携できる体制を構築し、実際に15歳の胃がん患者に適用しました。
- 患者ごとの必要性に応じて、陽子線治療を静岡県立がんセンターに依頼するなど適宜、対応しました。
- 当センター内分泌・代謝科によるCOS外来が開始され、おもに造血細胞移植を受けた患者、脳腫瘍の患者を対象にして、内分泌学的な長期フォローアップを行う体制を整備しました。
- 退院後の継続支援として、当センター血液・再生医療科による、患者、家族を対象としたグループ診療を開催しました。
- 指定後の登録医療機関数が99件増加しました。（平成26年度6月現在 464機関）
- 当センターの小児がんに関わる取組状況の適切な情報提供のため、広報誌「連携室だより」において小児がん拠点病院としての取組を積極的に紹介しました。

指定前後の変化

第3 その他の取り組み

- 平成25年4月に小児がん相談支援室を設置し、相談体制を強化しました。平日昼間に常設し、看護師・保健師が相談窓口を担当していることにより、患者、家族のご相談から、ニーズを把握することができ、課題の早期解決などにつながっています。
- 小児がん相談支援室を設置し、小児がんをクローズアップしたことにより、行政機関と協力し、地域の支援者の育成を目的とした研修会や患者、家族、地域住民、地域の医療関係者を対象に小児がん相談支援セミナーを開催して普及啓発することができました。
- 平成25年4月に退院・在宅医療支援室を設置し、在宅で治療を受ける小児がん患者の増加に対応した、地域の医療・保健・福祉機関の支援に取組むとともに、主に訪問看護ステーション対象とした看護師交流会を開催しました。
- エルウィナーゼ、ニロチニブの治療を行うなど、小児がん治療に用いる新規薬剤の開発に協力しました。
- 院内がん登録システムを整備し、地域がん登録、日本小児血液・がん学会登録にも積極的に参加しています。
- 白血病細胞を用いた、試験管内での薬剤感受性試験を行う体制を整備し、他院からの依頼に応じて平成25年は、21件の難治性白血病に対して検査を行いました。
- 患者への教育及び復学支援に向け、病棟科長、血液再生医療科医師、院内学級教諭、保育士と定期的にカンファレンスを行い、ベッドサイドでなく、学習の場所としての環境整備を今ある状況の中から工夫しながら整えています。
- 退院後外来フォローに移行したことも、復学や支援級への移行など生活に関連した課題がある場合には、教育コーディネーターとの調整を図りながら支援を行っています。

● 進捗がなかった点

第1 集学的治療及び標準的治療の提供

- より直接的に治療内容の検討を行うキヤンサーボードに他院からの参加がありませんでした。周知の方法を改善するとともに、他院からでも参加しやすい開催時間を検討する必要があります。
- 末梢型中心静脈カテーテルの導入や栄養サポートチームによる小児がん治療への介入が実際、安全性の向上に貢献しているか、評価はできていません。感染症の発生率などを経時的に評価する必要があります。
- 小児がん拠点病院としての広報が十分にはできていません。小児がん拠点病院としての取組を広報するにはホームページの整備が必要です。
- 治療後の逆紹介は制度化されておらず、多くの場合は治療後も当センターで定期健診が続けられています。後方搬送を円滑に行うためには、地域の他の小児がん診療施設との緊密な連携が必要です。

第2 地域連携

- 地域の小児がん診療施設や行政機関による連携協議会が未設置です。拠点病院としての役割を果たしていくためには、地域との連携が不可欠であり、協議会の設置が必要です。

第3 その他の取り組み

- 今後、さらに多くの治療等に対応するためには治験管理室の拡充や小児がん治療に特化した臨床試験管理部門の設立が必要です。
- 学習場所の環境整備を進めています。今後利用可能な部屋の運用などを考慮していく必要があります。

事業実績報告

病院名：神奈川県立こども医療センター

(対象経費の実支出額)

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費 15.6百万円 (18.4百万円)

- ・小児がん医療従事者研修事業
緩和ケアセミナー(3回/年)実施に係る講師謝金
研修会(講演会)講師謝礼

0.2百万円 (0.2百万円)

- ・院内がん登録促進事業
院内がん登録業務専任者の雇用(非常勤1名)

2.6百万円 (2.7百万円)

- ・がん相談支援事業
連携室たより印刷、小児がん相談支援のための図書等
がんの子供を守る会リーフレット送料
がん支援相談員の人件費
長期フォローアップ用事務員人件費

0.9百万円 (1.1百万円)

- ・プレイルーム運営事業
プレイルーム運営病棟保育士の人件費

11.9百万円 (14.4百万円)